

相模川流域における不法投棄ごみ対策活動と 子どもたちへの環境学習

特定非営利活動法人 相模川倶楽部 代表 小池秀司

なぜゴミなの？

11年前の1995年7月1日、相模川倶楽部の前身である市民ネットワーキング・相模川が、1年8ヶ月の準備の末発足致しました。そのときの記念事業として、ゴミの分類調査に水生生物調査とパックテストによる水質調査をセットにしたクリーンキャンペーンを相模川の河口から源流までの115kmを対象に3年間行いました。

(水生生物調査・水質調査・分類別ゴミ拾い)



大型ゴミへの挑戦！

しかし、このクリーンキャンペーンでは散乱ゴミしか扱いませんでしたので、大型ゴミや不法投棄物の醜い姿を横目で睨み、とても悔しい思いをしましたので、いつかこの不法投棄を何とかしたいと考えていました。

私達の活動の一つに、河口から源流まで少しずつ歩きながら川を直に学ぼうというイベントがあり、或る日、大型バスが河川敷に乗り捨ててあるのを発見しました。明らかに不法投棄の大型ゴミです。車内にあった書類で米軍のバスと判明、早速多方面に働きかけたところ、いつの間にかバスが消え、市民の努力、活動が実を結びました。

その後、このことがきっかけとなり、仲間の有志が不法投棄の調査を始め、毎週1回同じ箇所のゴミの増加を調査する「定点実態調査」や、24時間不法投棄の実態を調査する「夜間実態調査」などを警察と連携しながら行い、3年後にはこの成果を1冊の本「相模川ゴミ探偵団」にまとめました。

本格的不法投棄調査の開始！

これらの実績を買われ、NPO法人相模川倶楽部への改組を機に神奈川県から県内全域の不法投棄調査事業を委託されました。この事業により、特にパソコンの機器に精通し、ゴミ問題に興味がある人を雇用し、県内の不法投棄の実態、調査のポイント、GPS等機器の操作などについて実地訓練を含めた研修を行った上で、雇用した6名を2名ずつ3区域に分け、1ヶ月間、河川と山林を中心に車や徒歩で歩き回り、GPSで位置を確定、デジカメで状況を写し、ゴミの種類や量を調査票に書込み、これら全てをパソコンに入力、毎日スタッ



相模川流域における不法投棄ごみ対策活動と子どもたちへの環境学習

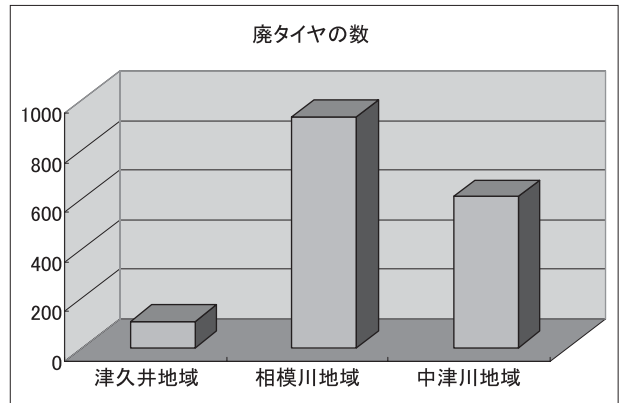
特定非営利活動法人 相模川倶楽部 代表 小池秀司

フにメールさせました。スタッフはこの膨大なデータを集計・整理・分析し、パソコン画面上の地図に表示された投棄ポイントをクリックすると、現場の写真や内容を表示することができるデジタルマップを作成するとともに、同じポイントでのゴミの種類と量の季節変化や、具体の不法投棄対策などもまとめ、県に報告しました。この事業はH14年度からH16年度まで3年間続けました。

不法投棄タイヤを片付けよう！

この調査によって自動車関連の不法投棄が最も多いことが判り、ずーと心のどこかに引っかかっていた「大型ゴミを片付けたい！」という想いを、具体的な事業とするための視点が見え始めてきました。

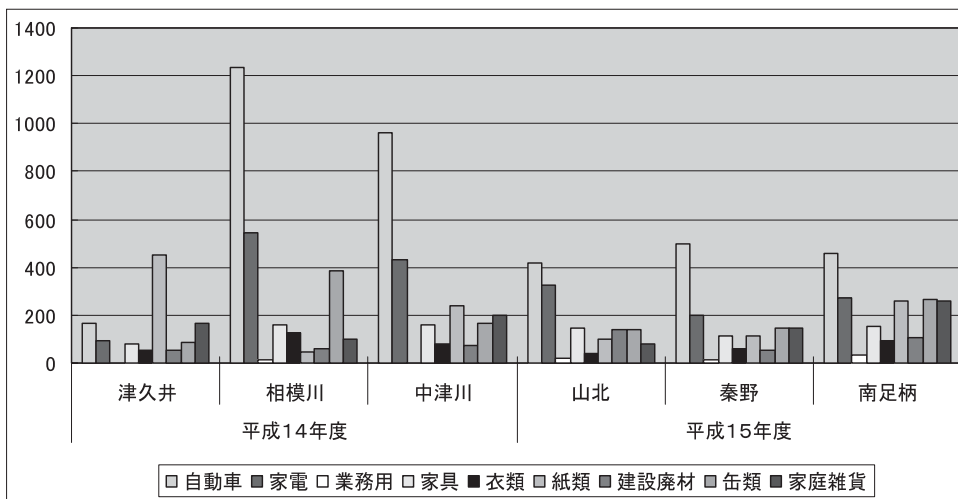
まず、これまでの、市民がゴミを集めるだけの自己満足の事業ではだめで、市民団体が収集からリサイクルまで一貫して関わることができる事業であること、リサイクルを行うには既存のリサイクル(市場経済)システムを活用できることが重要で、そのためには分別収集を徹底してゴミの性質を均一化できること、そして何よりも市民ボランティアが扱って安全であることなどです。こうし



たことから、私たちは、まず、タイヤに絞り事業化を検討しましたが、ここで、大きな壁にぶつかりました。市民にはタイヤの収集はできるけれどリサイクルはできないという現実です。資金はどうするのか、リサイクルをどこに頼めばよいのか、一市民団体に企業は協賛してくれるだろうか……。

協働事業へ！

ありました！まるで私達を待っていたかのような仕組みが。かながわボランティア基金協働事業です。H16年度の事業に、企画書をもって応募、プレゼンテーションした結果、見事に助成事業に選ばれました。



この事業は、「不法投棄タイヤの収集とリサイクル事業」として、神奈川県廃棄物対策課との協働事業となり、その後神奈川県自動車タイヤ販売店協会さんからの支援を受け、廃棄物中間処理業者2社が廉価で運搬と処理を引き受けてくれたことにより、不法投棄タイヤ

は最終的にセメント会社で100%リサイクルされ、
 念願の市民・行政・企業の協働事業が実現しま
 した。

不法投棄タイヤの収集へ！

H16年9月、GPS片手に不法投棄タイヤの調査が
 始まりました。小学生から60歳以上のおじさん
 まで、総勢31人での調査です。

第1回目のタイヤ収集は9月19日（日）相模川の
 座架依橋から戸沢橋まで、GPSデータによる不法
 投棄タイヤのポイント地図を手に、小学生11人を含
 む市民・行政・企業からなる47人が参加し、
 256本のタイヤを収集しました。

これまで、H16年度には8回の収集作業で合計
 3,751本のタイヤを、H17年度には1,375本を加え、
 5千本を超える不法投棄タイヤを集め、リサイクル
 しました。

回数	平成15年度 年月日	曜日	回収場所	回収作業参加者数				計	回収本数				その他 タイヤ 本数	計
				相模川 河川 本部	市民 (含企業)	企業	行政		乗用車・トラック タイヤ	オート バイ	オート バイ	その他 タイヤ		
1	H15.9.19	日	戸沢橋～志保橋(左岸)	6	25	25	0	56	0	0	0	0	0	0
2	H15.9.19	土	河口～津川橋(左岸)	4	9	0	0	13	76	33	0	0	108	
3	H15.9.19	日	戸沢橋～志保橋(左岸)	11	30	30	1	72	51	202	0	3	252	
4	H16.10.23	土	金田地区	8	11	11	0	30	45	269	0	8	322	
5	H16.10.24	日	中田地区	8	19	19	0	46	32	380	1	13	432	
6	H16.10.25	月	河口～津川橋(両岸)	3	2	0	0	5	12	19	27	0	48	
7	H16.11.20	土	志保橋～狭野橋(左岸)	10	22	21	1	54	26	662	0	8	706	
8	H16.11.28	日	深ヶ島	4	12	0	0	16	0	38	0	0	54	
9	H16.12.17	土	野川橋下流	12	16	12	1	41	35	704	0	2	742	
10	H16.12.20	日	深ヶ島	7	22	22	0	51	51	1208	0	0	1259	
合計				73	176	178	3	255	316	3403	1	31	3751	

子供がすごい！

委託事業での目視調査の結果に基づいて、H16
 年度の目標を1,200本と定めたのですが、なぜこん
 なに沢山のタイヤが集まったのでしょうか。

タイヤは隠れていたのです。タイヤの山の下にも
 タイヤの山が、沼地の水の中にもタイヤが何層に
 も潜んでいるのです。子供たちは元気です。大人
 が躊躇するような藪や草むらの中にどンドン入っ



て行って次々とタイヤを見つけます。汗まみれ、
 泥まみれ、手足にすり傷をつけながらも一生懸命
 沢山のタイヤを見つけ出してくれました。重くて、
 泥や水に漬かったタイヤを扱うので、子供たちは
 疲れて飽きてすぐに逃げ出してしまうと思ってい
 たのですが、子供たちは、むしろ目を輝かせて、
 まるで楽しんでいるかの様子でした。後日、お母
 さん方から、「子供もまたタイヤ集めをしたいと言
 っているので、次も是非参加させてください。」と
 の声をいただき、内心驚くとともに、感動の気持
 ちでいっぱいになりました。テレビのインタビュ
 ーでの親子の声は、親「子供たちが安心して自由
 に遊べるように、少しでもゴミが少ない川になっ
 てほしい。」、子「やっぱり、ゴミのないきれいな
 川になってほしい。」です。

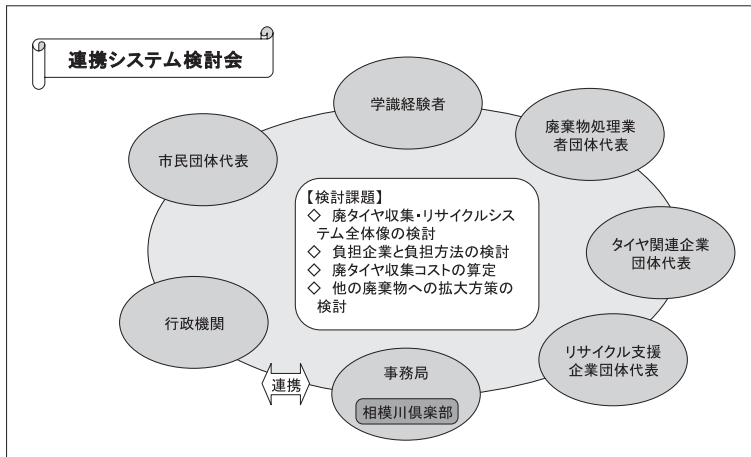
いうまでもなく、子供たちのタイヤ収集は今でも
 続いています。

今後の展望

不法投棄タイヤについては、市民がタイヤを探し
 拾い集めて、企業が運搬処理リサイクルへとつな
 げ、行政は支援と調整を受持つという協働連携シ
 ステムが確立しました。今後は、このシステムを
 継続的に進めて行き、家電や衣類等のリサイクル
 まで広げていくために、行政・企業・市民に学識
 経験者を加えた連携システム検討会議を始めてい

相模川流域における不法投棄ごみ対策活動と子どもたちへの環境学習

特定非営利活動法人 相模川倶楽部 代表 小池秀司



ます。

こうした事業は市民の想いだけでは成り立ちません。市民と企業と行政が、それぞれの得意分野を役割として分担し、かつシステムとして自立して運営される必要があります。今後とも、より多くの企業関係者等に事業の意義や効果などを説明し、不法投棄の原状回復に向けたしくみづくりによる環境保全対策について、理解と継続的協力を働き

かけたいと考えています。

子供たちも次の不法投棄収集とリサイクルへの参加を待っています。

ゴミが片付き、不法投棄する人がいなくなり、一日も早く、ゴミひとつない美しい自然が戻ってくることを期待して、相模川倶楽部はこの活動を続けていく所存です。